

## マルルーニー首相の横顔

ブライアン・マルルーニー氏は、1939年3月20日、ケベック州ベイ・コモで6人兄弟の1人として生まれた。アイルランド系移民の息子で、英仏両語を流暢に話す。ノバスコシア州の聖フランシス・ザビエル大学から政治学の学士号、ケベック州ラバル大学から法学士号を得て卒業。学資は、日雇いやトラック運転手をして稼いだという。

ラバル大学を卒業すると同時に、モンリオールの法律事務所に加わり、労働争議の弁護士として名を馳せた。1974年には、ケベックの建設業界における暴力を調査する連邦政府の特別委員会のメンバーに任命されている。

1974年、35歳の若さで、アイアン・オア・カンパニー・オブ・カナダ(鉄鉱石の会社)に副社長として迎えられ、翌年社長に選任される。昨年6月、保守党党首に選ばれるまで、同社の会長および鉄道会社など関連子会社の社長の座にあった。

政治には、すでに大学時代から強い関心を示し、1976年の進歩保守党党首選出大会では、党首に立候補している(そのときはジョーク・クラーク氏が選出された)。しかし議員歴はなく、党首に選ばれたあと、ノバスコシアの選挙区から立候補して初めて下院議員への当選を果たした。その後は、トルドー首相を相手に野党党首としての手腕を発揮してきた。

今回の選挙では、ケベック州の選挙区から立候補して当選している。趣味はテニス、水泳、釣り、スケート。大の野球ファンでもある。ユーゴスラビア出身のミラ夫人との間に、3人の子供がいる。



## カナダ、保守党政権に 経済再活性化が最大目標

「わたしが(進歩保守党の)党首に選ばれたのは、ある意味では、(ケベック州における)自由党の独占を打ち破るためである。わたしはどうしても勝つてやる」

選挙運動でこう予言した若千四十五歳のブライアン・マルルーニー氏の率いる進歩保守党が、二百八十二議席のうち二百十一議席を制するという、カナダの政治史上最大の勝利を収めて、新たに政権の座についた。戦後では、ディフェンペーカールおよびクラーク政権に次ぐ三度目の保守党内閣の誕生である。

カナダは今、ケベック問題や憲法のカナダ移管に力を入れたトルドー首相の「政治の時代」から、失業や財政赤字の解消を最大課題とする「経済の時代」に突入したことになる。

六月三十日にトルドー首相からバトンタッチされたばかりのターナー氏は、わずか二か月余りの天下に終わったわけである。しかも、議席は解散前の百三十九から、たった四十に転落した。同党にとって最低記録である。ターナー氏は、ブリティッ

シュ・コロンビア州の選挙区からかつて当選したものの、リーガン、フォックス、ロバーツ、ラムリー、エローラなど、多くの現職閣僚が落選している。

進歩保守党は、これまで自由党の牙城とされていたケベック州で七十五議席のうち五十八議席(残り十七議席は自由党)最大票田のオンタリオ州で九十五議席のうち六十七議席、自由党十四、新民主党十三、無所属一)を獲得したほか、ブリティッシュ・コロンビア州で二十八議席のうち十九議席、アルバータ州で全二十一議席、サスカチュワン州で十四議席のうち九議席、マニトバ州で十四議席のうち九議席と、伝統的に強い西部カナダでも圧倒的な強さを見せた。また東部でも、ニュー・ブランズウィック州(定数十)とノバスコシア州(同十一)の九議席をトップに、プリンス・エドワード・アイランド州(四)で三議席、ニューファンドランド州(七)で四議席、そしてユークン、ノースウエストの二準州(合計三)で三議席と、すべての州および準州で、過半数を制した。

事前の予想では、自由党と保守党の接戦、新民主党の大敗、というのが大方の線だった。しかし、自由党の人氣がトルドー辞任から党首選まで高まった一時的なものだったことが除々に判明、選挙直前の世論調査では、党首選前の支持率(三〇―三五パーセント)に戻った。

自由党の敗因としては、トルドー内閣が辞任直前に閣僚十七人を上院や外交官ポストなどに内定、それをターナー首相

官問題についてはテレビ討論で終始ターナー氏を優勢に立たせた。

マルルーニー氏がケベック出身で、しかもターナー氏のフランス仕込みのフランス語と違って、地元フランス語で語りかけたのは、ケベック州での大量議席獲得につながった。さらに、これまで、右寄り「のイメージが強かった進歩保守党が、中道、政党としての政策をかけたのも、幅広い支持を得る要因となった。

勝利声明の中で、マルルーニー氏は、「国民の要求は明瞭である。その声は、長年にわたって無視されてきた西部カナダから、そして長い間誤解されてきたケベックから、同じ力強さと雄弁さで、聞こえてくる。それはまた、大西洋沿岸諸州の経済的期待の合図であり、またオンタリオのあの強大な産業基盤の再活性化の声である」

と述べているが、これで、ケベック、オンタリオという二大州の有権者の支持に頼り、西部カナダではほとんど支持のなかったトルドー時代とは打って変わって、真に全国を代表する政権が生まれたことになる。

マルルーニー氏は、同じ声明で、「われわれの目標と使命は、雇用を創出し、カナダ経済を再び前進させることにある。これは、わが国の若者および高齢者に対するわれわれの義務である。新政権は、外国投資、国内投資にとって魅力的な経済環境をつくることを最優先事項とする。資本にとって信頼できる新しい時代、国民が雇用創出および経済成長の恩恵を受

連邦下院の新しい勢力分野(カッコ内は選挙前)

州	保守党	自由党	新民主党	無所属	空席	合計
ブリティッシュ・コロンビア	19(17)	1(0)	8(11)	0(1)	—	28
アルバータ	21(19)	—	—	—	(1)	21
マニトバ	9(5)	1(2)	4(7)	—	—	14
サスカチュワン	9(7)	—	5(7)	—	—	14
オンタリオ	67(36)	14(49)	13(6)	1(0)	(4)	95
ケベック	58(1)	17(70)	—	—	(4)	75
ニュー・ブランズウィック	9(3)	1(6)	—	—	(1)	10
ノバスコシア	9(6)	2(4)	—	—	(1)	11
プリンス・エドワード・アイランド	3(2)	1(2)	—	—	—	4
ニューファンドランド	4(2)	3(5)	—	—	—	7
ユーコン準州	1(1)	—	—	—	—	1
北西準州	2(1)	0(1)	—	—	—	2
合計	211(100)	40(139)	30(31)	1(1)	0(11)	282

が選挙後に実施すると約束したこと、ターナー内閣がトルドー内閣の陣容をほとんどそのまま引き継いだこと、ターナー首相が自らのイメージを確立する前に選挙を急ぎすぎたこと——などが考えられる。

一方のマルルーニー氏は、ほとんど完ぺきに近い選挙運動を繰り広げた。一年がかりで作り上げた党内の選挙組織を駆使し、変革を中心テーマに据え、また任

ける時代を、確立するつもりである」として、経済の活性化とそれによる雇用の増大に最大の努力を傾ける姿勢を示した。マルルーニー氏は、自由党政権下における外資規制やエネルギー部門のカナダ化を推進しようという国家エネルギー政策を批判、今後は失業解消のために、これらの政策を大幅に緩和する、と語っている。

外交政策では対米協調を重視するとしており、特に経済面での関係改善が期待される。マルルーニー氏はまた、選挙運動で、防衛力増強の必要性についても述べているが、カナダが今後とも国際平和のために努力することも約束している。



支持者の歓声に応えるマルルーニー氏とミラ夫人。

対日関係については特に触れていないが、マルルーニー氏の首席政策顧問チャールズ・マクミラン氏(ヨーク大学教授)が「日本の産業システム」という本の著者で日本経済に詳しく、日本人と結婚して日本語も話すという日本専門家であること、ブリティッシュ・コロンビア州、アルバータ州など西部カナダが進歩保守